令和 ４ 年度　さいたま市立与野南中学校　学校だより
み　な　み　か　ぜ

南　風

第　３　号
令和 ４ 年 ６ 月 １ 日発行
http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp

＜学校教育目標＞ 進んで学ぶ生徒　心豊かな生徒　心身共に健康な生徒

生徒集団の安全保障～いじめ撲滅月間にあたって

校長　　吉　原　誠　士

“当初予定通り”の京都・奈良方面への修学旅行が３年ぶりに実施となり、ニュースでも取り上げられていました。本校も開始第１週からの日程でしたが、こちらに戻った５月１５日以降に感染報告はなく、ホッとしています。このように書くのは、参加を諦めた生徒には申し訳ないという気持ちと同時に、事前に断念した勇気を褒めたい思いもあるからです。実際、学校によっては体の調子がよくないにもかかわらず参加した者がいたり、現地で発生した事態への対応に困難があったりしたと聞いています。

そのような中で、「いじめについての講話」を求められました。「いじめは行う張本人だけでなく、傍観者や、いじめに気付かなかった者も加害者である」「人それぞれ個性があるから、物事への振る舞い方にも違いが生じる。共生はそのような“文化性”の違いを認めることからスタートする」など、まずはこれまでに述べてきたことを繰り返しました。今年は、上記のこともあったので、「クラスでも安心して体調の不良を告げることができるような安全保障を求める」という話を付け加えました。「いじめが存在すると“コロナ対応”にもほころびが生じる」ということです。出発の数日前から、あるいは現地で活動が始まってから、「具合が悪い」と正直に言うことができるかどうかが問題になっているのです。日常の安全が保障されていなければ、正直に申し出ることなど到底できません。

私自身は新型コロナウイルスに感染し、３月２８日に発症しました。迷いが生じたのは市販の風邪薬を服用したところ、倦怠感やのどの痛み、そして発熱まで治まってしまったからでした。教員生活最後の３日間、そして「再任用校長」のスタートを控えているのに出勤できないのは嫌に決まっています。しかし、感染を広げた時の実害や、異変を誤魔化した場合の自分の気持ちといったことが頭の中を巡りました。この時、「皆には驚きが広がるかもしれないが、これまで関わってきた人たちからの批判はないであろう」と気付くことができました。これこそ自分が所属する“集団”と、３年間を過ごしてきた“場”への安心感でしょう。無症状になってはいましたが、思い切ってＰＣＲ検査を受け、休みを宣言しました。“ホテル療養”という滅多にない体験を経て、無事職場に復帰できたのでした。

チームプレイのスポーツでは、患者や濃厚接触者が発生して大会に参加できなくなることがあり得ます。感染症だけではありません。チームの要であっても、突然のケガや故障に見舞われることもあるでしょう。このような場合に、正直に自分の不調を仲間に告げることができるのが“信頼関係に裏打ちされたチーム”であり、力も発揮できるのでしょう。温かいまなざし、ゆっくり話を聞いてくれる耳、そして余計な噂話はしない口。これらがしっかりした集団であれば「安全保障」はほぼ達成されていると言えそうです。与野南中学校の各学級、部活動も日常の生活の在り方が問われているのです。集団は個人の集まりですから、一人ひとりが「安心感を奪う行為が迷惑である」と自覚してください。他人の安全と安心を脅かすことはいじめであり、ハラスメントです。あらゆる場面で、相互に安全保障ができる環境づくりを目指しましょう。ご家庭でもご指導よろしくお願いします。